

様式第二号の八（第八条の四の五関係）

（第1面）

産業廃棄物処理計画書

令和 8 年 6 月 10 日

福島県知事

内堀 雅雄

殿



提出者

住 所 福島県南会津郡南会津町松戸原223

氏 名 株式会社 館岩工務所

代表取締役 芳賀 博之

電話番号 0241 (78) 2224

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	株式会社 館岩工務所
事業場の所在地	〒967-0304 福島県南会津郡南会津町松戸原223
計画期間	令和8年4月1日～令和9年3月31日

当該事業場において現に行っている事業に関する事項

① 事業の種類	総合工事業 一般土木建築工事業
② 事業の規模	90,277万円(前年度)
③ 従業員数	30人(令和8年4月末現在)
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	分別排出 → 中間処理施設 → 最終処分場 ・分別して排出 ・運搬及び中間処理委託 ・最終処分

（日本工業規格 A列4番）

(第2面)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

(管理体制図)

会社

産業廃棄物管理責任者

産業廃棄物担当者

現場代理人 現場

現場代理人 現場

現場代理人 現場

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項（別紙のとおり）

①現状	【前年度（ 7 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	排 出 量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	排 出 量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) がれき（アスファルト、コンクリート、ガラス陶磁器）金属、木、廃プラスチック、紙、繊維、廃油、汚泥、建設業混合廃棄物の種類ごとに容器を設置して分別排出。
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 同上

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（ 7 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	-	-
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	- t	- t
	（これまでに実施した取組） 自ら直接再生利用した産業廃棄物はない		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	-	-
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	- t	- t
	（今後実施する予定の取組） 今後も直接再生利用する予定はない		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（ 7 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	-	-
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	- t	- t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	- t	- t
	（これまでに実施した取組） 自ら中間処理は行っていない		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	-	-
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	- t	- t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	- t	- t
	（今後実施する予定の取組） 今後も自ら中間処理を行う予定はない		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度（ 7 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	-	-
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	- t	- t
	（これまでに実施した取組） 自ら埋立処分または海洋投入処分は行なっていない		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	-	-
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	- t	- t
	（今後実施する予定の取組） 今後も自ら埋立処分または海洋投入処分は行わない		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項（別紙のとおり）

①現状	【前年度（ 7 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	-	-
	全処理委託量	t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	t	t
	再生利用業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
	（これまでに実施した取組）		

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	-	-
	全 処 理 委 託 量	t	t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	t	t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
※事務処理欄			

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。

(1) ①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。

(2) ②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元

完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応

事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。

(3) ④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了する

までの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。

請
じ
ま
と。

中
間

量
行
収
あ
へ

と
の
入

- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。

- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。

- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「一」を記入すること。

- 7 ※欄は記入しないこと。

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項 前年度(7年度)実績											
①現状	産業廃棄物の種類		がれき類	金属くず	木屑	ガラス、陶磁器	石膏ボード	廃プラ	紙くず	汚泥	混廃
	排出量		1,743.45 t	10.12 t	371.44 t	2.9 t	0.51 t	12.31 t	0.74 t	0.72 t	1.37 t
(これまでに実施した取組) がれき類については、受注量内容により増減が激しく特に取組は行っていない 杭木、丁張り材、型枠材等の木材の再利用を行っている											
②計画	目標										
	産業廃棄物の種類		がれき類	金属くず	木屑	ガラス、陶磁器	石膏ボード	廃プラ	紙くず	汚泥	混廃
		排出量		900 t	30 t	30 t	3 t	1 t	8 t	0.5 t	4 t
(今後実施する予定の取組) 同上											
産業廃棄物の分別に関する事項 (分別している産業廃棄物の種類及び分類に関する取組)											
①現状	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分類に関する取組)										
②計画											
自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項 前年度(7年度)実績											
①現状	産業廃棄物の種類		自ら再生利用を行った産業廃棄物の量								
			(これまでに実施した取組)								
②計画	目標										
	産業廃棄物の種類		自ら再生利用を行う産業廃棄物の量								
		(今後実施する予定の取組)									

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項	
①現状	前年度(7年度)実績
	産業廃棄物の種類
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量 (これまでに実施した取組)
②計画	目標
	産業廃棄物の種類
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量 (今後実施する予定の取組)
自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項	
①現状	前年度(7年度)実績
	産業廃棄物の種類
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量
	(これまでに実施した取組)
②計画	目標
	産業廃棄物の種類
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量
	(今後実施する予定の取組)

産業廃棄物の処理の委託に関する事項 前年度(7年度)実績										
産業廃棄物の種類	がれき類	金属くず	木屑	ガラス、陶磁器	石膏ボード	廃プラ	紙くず	汚泥	混廃	
全処理委託量	1,743.45 t	10.12 t	371.44 t	2.9 t	0.51 t	12.31 t	0.74 t	0.72 t	1.37 t	
優良認定処理業者への処理委託量	t	t	t	t	t	t	t	t	t	
再生利用業者への処理委託量	1,743.45 t	10.12 t	371.44 t	2.9 t	0.51 t	12.31 t	0.74 t	0.72 t	1.37 t	
認定熱回収業者への処理委託量	t	t	t	t	t	t	t		t	
認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t	t	t	t	t	t		t	
(これまでに実施した取組) 再生骨材を製造することができ再生利用業者を選んで処分を委託すること、極力、埋立処分はしないようにしている 分別排出										
目標										
産業廃棄物の種類	がれき類	金属くず	木屑	ガラス、陶磁器	石膏ボード	廃プラ	紙くず	汚泥	混廃	
全処理委託量	900 t	30 t	30 t	3 t	1 t	8 t	0.5 t	4 t	0.5 t	
優良認定処理業者への処理委託量	t	t	t	t	t	t	t	t	t	
再生利用業者への処理委託量	900 t	30 t	30 t	3 t	1 t	8 t	0.5 t	4 t	0.5 t	
認定熱回収業者への処理委託量	t	t	t	t	t	t	t		t	
認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t	t	t	t	t	t		t	
(今後実施する予定の取組)										
現在委託している再生利用業者に加え、優良認定処理業者への処理委託。										
※事務処理欄										

